會を先頭に蜒々長蛇の陣を作り新開地西筋東川崎町に出で川崎造船所、三菱造船所を經て川崎兵庫工場を訪ひ正午兵庫假留監跡に於て解散、大示威行列の總指揮官は久留弘三氏、參謀賀川、野倉、須々木の三氏、前衛中衛後衛を柴田、堀、行政の三氏承はり酒氣を帶びたる者、棍棒を所持する者、暴行の憂ひある者は一切行列に加へず會旗以外には旗差物を禁じ指揮者、整理委員、傳令等を列の各所に配置し、救護班を自働車に載せ各自水筒を用意する等周到なる注意の拂はるるあり、途中多くの混雜を見ることなく終了したり。此空前の大行列の光景は七月二十五日發行勞働者新聞に依れば左の如し。（特に其機關紙たる勞働者新聞の體裁に據る）

さながら戰ひの繪卷の如く

勞働者大示威の日

神戸全市に渡る大群三萬五千

秩序整然一絲亂れず

大飾物凄き會下山集合地

七月十日全國空前の勞働大行進の日は來た。朝來雨催しの空、午前七時半頃から小氣味好く晴上つて絶好の示威行列日和となつた。會下山の集合地に向けて腕章を掛けた自轉車の傳令隊が蝶の如く飛ぶ。伝眼判事が迂路迂路眼を光らせる。十二分の此警戒網を縫うて意氣昂然たる勞働團體が會旗を先頭高く翻して潮の如く繰出した。來たる八時頃には約三萬の大集團となり彼の廣場を今、文字通りに埋め盡して喫度の樣な物凄き物凄き氣勢を見せつゝある。　各團體の旗幟百旗と云ふ強烈な色彩を熱氣に煽つて

縫れ合ふ。無氣味な印刷用インキで塗り潰した黑地に眞赤な文字で會名を書いたもの、燃える如うな赤地に黑のマークを描いたもの、燃え上る焰に拳を型どつた物凄いもの、夫等の眼を射るやうな烈しい彩りの旗に混つて「死線まで」「死すまで戰へ」「興廢は此一擧にあり」等と墨痕淋漓大書した大旗が蒼空高く悠々と搖いでゐる。勇ましい勞働歌が堤を決するやうに湧き起つて會下山の森を搖撼する。斯くて八時半「示威行進だ〳〵」の叫びと共に電正會の會旗を眞先に押立て總指揮官久留弘三氏が愈々先頭を切つて樂隊の行進曲勇ましく會下山の西側を二手に分れ川崎、三菱、印刷工組合、大阪聯合會、神戸各團體、兵庫分工場の順で徑々に繰出し、濠々乎として舞ひ上る砂塵の中、勞働勝利の雄叫びは高く廣く揚つた。宛ら戰ひの發途の如く群の長陣、只意氣と團結に燃ゆる眼がヨゴれた青い勞働服と黃色い勞働服の間に光つてゐる。

先づ行進の最先に

川崎本社前を埋め

正々堂々の大示威

活動寫眞隊活動す

かくて二手に分れた行列は大開通聚樂館西手で合し騎馬巡査を先頭に樂隊の行進曲勇ましく聚樂館前に到り電車道を横切り新開地を南して一直線に川崎造船本社に向つた。　數千旋の勞働旗の波は樂隊と勞働歌の唸りに物凄くジリ〳〵と押寄せる新開地の雜沓場を切り拔けて湊町四丁目の電車筋に差蒐つた時に五六十名の警官隊は電車を降りて川崎本社に驅け付けた。勞働軍の行進は整然たる秩序の下に一絲亂れず正々堂々と高らかなる勞働歌と共に午前九時頃愈々川崎本社事務所の前に差し蒐る。　各自の手にする紅白青色とりどりの小旗と無數の大旗は勞働歌の叫びと共に忽ち川崎本社の前に大渦を卷起し光景眞に凄絶！壯絶！言語に絶す折しも一臺の自動車が後方より驀進し川崎本社の手前にハタト停止したつこれ日活活動寫眞撮影部の撮影隊なのである。旗波、と、人の渦——凡ては技師の手によつて逐一本邦の最初のフイルムに收められる。行列の先頭は直に引き返し湊町電車道に出で島上線に沿ひ西へ！西へ！と勇ましき行進を續けた。蜿蜒長蛇の陣は後方より續いて繰出して何時盡くべしとも思へない。